

Quality is more than a word

ESPEC



第 60 期

## 中間株主通信

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで

## 目次

株主のみなさまへ：TOP MESSAGE .....	1
TOPICS .....	3
株主アンケート結果のご報告 .....	5
連結業績の推移 .....	6
事業別概況 .....	7
要約財務諸表(連結) .....	9
会社の概要・役員 .....	11
株式の状況・株主メモ .....	12

## 株主のみなさまへ

みなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第60期(平成24年4月1日～平成24年9月30日)における業績ならびに取り組みにつきましてご報告申し上げます。



いしだ まさあき  
代表取締役社長 石田 雅昭

## 当第2四半期累計期間の業績

### 利益面では大幅に増加

当第2四半期累計期間のわが国経済は、震災の復興需要が景気を下支えしましたが、長引く円高や海外経済の減速、日中関係悪化による経済への影響懸念などにより、先行き不透明な状況が継続しました。当社の主要顧客におきましては、好調な二次電池やスマートフォン市場の関連メーカーでは、設備投資の拡大基調に一部陰りが見られたものの引き続き堅調に推移し、自動車関連メーカーにおいても積極的な投資が継続しました。一方で、家電メーカーでは慎重な姿勢が根強く継続しました。

こうした状況の中、当社はグリーンテクノロジー市場での営業活動を強化するとともに、主力製品の省エネモデルによる買い替え促進を図ってまいりました。また、海外では中国・アジアを中心に引き続き売上拡大に努めてまいりました。こうした結果、受注高・売上高につきましては前年同期比で若干減少しましたが、利益面では原価率の改善や販管費の低減等により前年同期比で増加しました。

## 中期経営計画の進捗

### 「プログレッシブプラン2013」

グリーンイノベーションを絶好のビジネスチャンスととらえ、攻めの経営に徹することでプログレッシブな経営を展開することをめざしております。

グリーンテクノロジー市場では、二次電池の生産・開発評価の分野に向けた営業活動を強化するとともに、パワー半導体などの専用装置や環境試験器の受注獲得に取り組みました。海外では、中国・アジア市場の成長に支えられ海外関係会社が好調に推移するとともに、日系企業の海外への事業移管に合わせて海外関係会社との連携を強化し受注獲得に努めた結果、輸出も堅調に推移しました。また、中国、韓国、北米の各拠点における生産拡大に向けて計画どおりに準備を進めてまいりました。国内では、買い替え促進活動を強化し新製品の販売が好調に推移するとともに、受託試験の新規メニュー開発やレンタル・リセール営業活動の推進などにより顧客接点の強化に取り組みました。

## 株主のみなさまへの利益還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。

中間配当につきましては、1株当たり7円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

	前第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	16,303	16,137	△1.0
売 上 高	14,306	14,290	△0.1
営 業 利 益	569	850	49.4
経 常 利 益	636	876	37.8
四半期純利益	521	618	18.6

## 連結業績

## 新製品の発売

### 真空オーブン VACシリーズ

大幅な省エネを実現した真空オーブンを5月に発売いたしました。真空オーブンは低圧環境で熱処理を行う装置で、二次電池や電子部品の研究開発や評価試験、生産など、さまざまな用途で利用が拡大しています。真空オーブンには、高い温度分布性能だけでなく、処理時間短縮や消費電力低減が求められます。新しい真空オーブンは、本体構造を全面的に見直して温度分布性能を向上させ、最大40%の大幅な省エネを実現しました。さらにカスタマイズ性の向上と豊富なオプションで、お客さまのニーズに迅速に対応いたします。



真空オーブン VACシリーズ

### 安定性試験器 CSHシリーズ

医薬品市場では、ジェネリック医薬品の増加や品質管理基準の厳格化により、安定性試験管理システムのニーズが拡大しています。当社は、5月に安定性試験器「CSHシリーズ」を発売するとともに、大手計測メーカーや代理店と協業し、安定性試験管理システムの提供を開始しました。当社の高精度な安定性試験器と協業する各社の温湿度監視システムを組み合わせ、お客さまの多様なニーズに幅広くお応えします。また、メーカーの強みを生かしたきめ細かなアフターサービスで医薬品市場のお客さまをトータルにサポートいたします。



安定性試験器 CSHシリーズ

### 恒温恒湿器プラチナスJシリーズが グッドデザイン賞を受賞

GOOD DESIGN  
AWARD 2012



恒温恒湿器プラチナスJシリーズが「2012年度グッドデザイン賞」を受賞。プラチナスJシリーズは、ハイクオリティとカスタマイズ性を追及するとともに、新技術で最大70%もの省エネを達成しました。これらの優れた特徴と製品本体はもとよりオプションも含め、使いやすさにこだわったデザイン性が評価されました。

## 最新設備の導入による大幅な生産効率の向上

当社では、国内外の生産拠点において生産設備の増強を進めています。10月に福知山工場に最新の板金加工機械NCタレットパンチプレスを導入し、生産効率の大幅な向上と外注加工部品の内製化によるコストダウンを進めています。米国のESPEC NORTH AMERICA, INC. でも、9月に高効率板金加工設備パネルベンダーを導入し、部品内製化に取り組んでいます。これによりコストダウンとともに、部品保管場所の縮小による生産エリアの効率的活用を図ります。さらにリードタイム短縮に向けた生産方式の変更にも取り組んでいます。



パネルベンダー  
(ESPEC NORTH AMERICA, INC.)

## 日経IRフェアへの出展

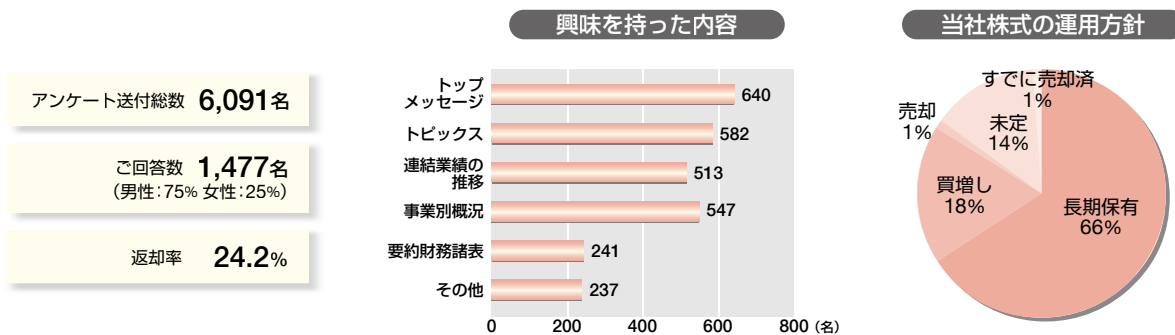
より多くの個人投資家のみなさまに当社の事業内容をご理解いただくため、東京ビックサイトで開催された日経IRフェアに初めて出展いたしました。当社ブースでは、事業紹介パネルを展示するとともに説明員が個人投資家のみなさまに直接ご説明させていただきました。また、社長による会社説明会を開催し、ブース来場者と説明会を合わせて400名以上の個人投資家のみなさまにご来場いただきました。個人投資家のみなさまからは、たくさんのご質問やご意見を頂戴することができ、貴重な機会となりました。今後も個人投資家のみなさまと情報交換させていただく機会を積極的に設けてまいります。



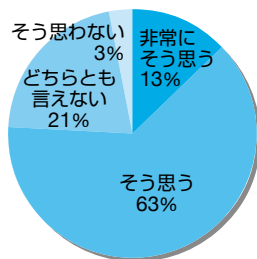
会社説明会

# 株主アンケート結果のご報告

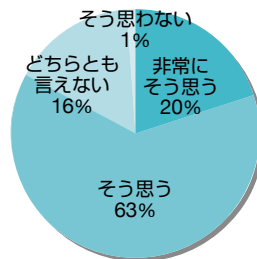
第59期株主通信のアンケートでは多くの株主さまからご回答をいただきました。ご協力いただきましたみなさまに厚くお礼申し上げます。いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えております。ここに、その集計結果とお寄せいただきましたご意見の一部をご紹介します。



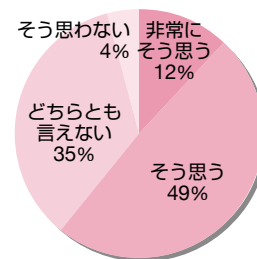
## 当社に対するイメージ



安定性がある



成長性がある



グローバル企業である

株主さまからの声

### 株主とのコミュニケーションの機会を増やしてほしい。

当期は、初めて日経IRフェアに出展し、多くの個人株主さまから貴重なご意見をいただくことができました。今後も、このような機会を増やすとともに、ホームページや株主通信等の充実を図り、株主さまに向けて積極的な情報発信を行ってまいります。

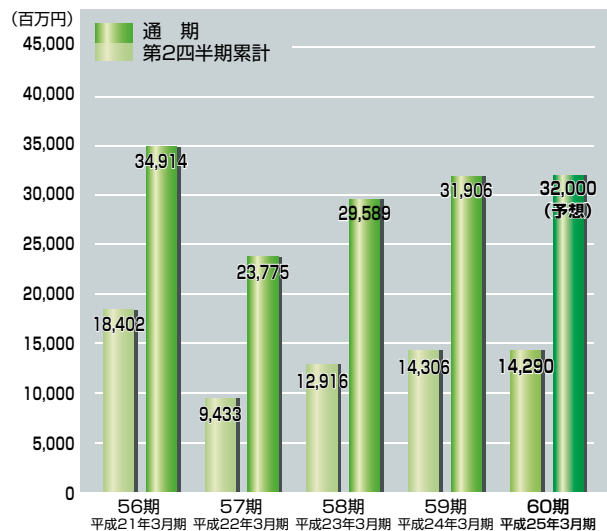
### 省エネ製品により節電に貢献してほしい。

省エネを製品開発の主要なテーマに設定しており、新たに発売する製品は大幅な省エネを実現しております。環境とエネルギー問題、さらにお客さまのコスト削減に貢献するため一層省エネ製品の開発を強化してまいります。

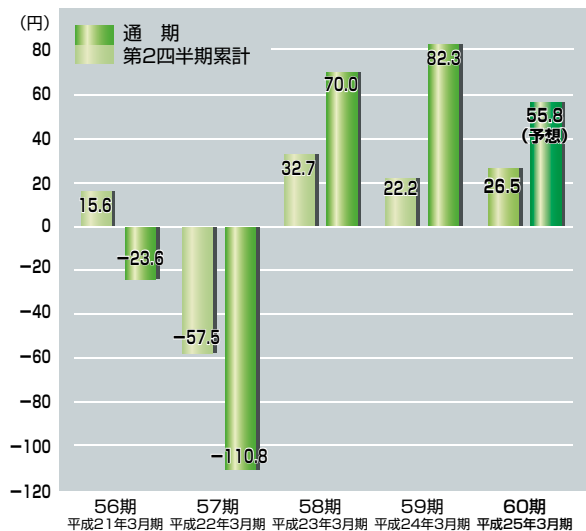
(最新の省エネ製品については、本誌P3をご参照ください)

# 連結業績の推移

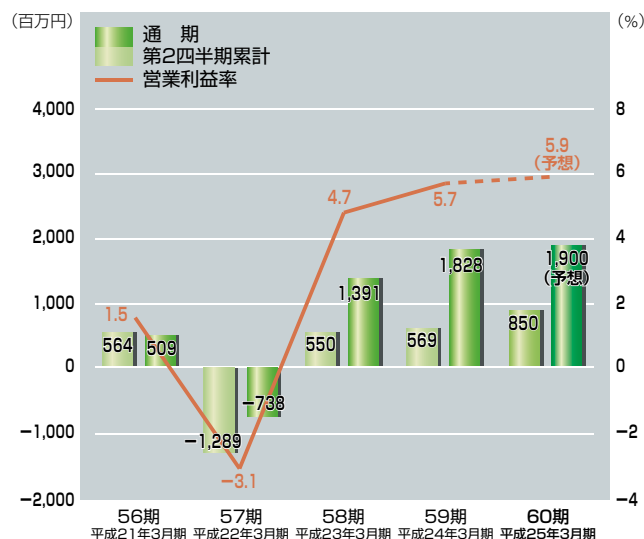
## 売上高



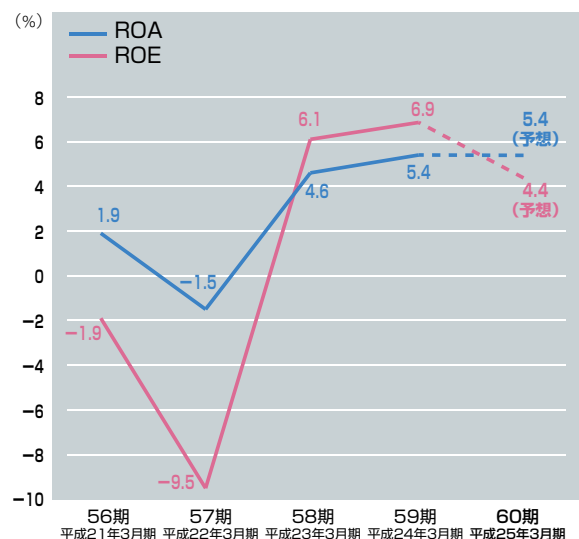
## 1株あたり当期純利益



## 営業利益／営業利益率



## 総資産経常利益率(ROA) 自己資本利益率(ROE)



## 装置事業

## ■ 事業内容

温度や湿度、その他環境因子が電子部品等に与える影響を試験する環境試験器を提供しています。また、半導体検査工程におけるバーンイン装置や、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、液晶などのFPDの生産ラインにおける熱処理装置・検査装置、電池を主としたグリーンテクノロジー市場向けのエネルギーデバイス装置などを提供しています。

## ■ 業績の状況

環境試験器につきましては、国内市場では、新製品の省エネ性能を効果的にPRし、買い替え促進活動を強化することで新製品の販売が好調に推移しました。カスタム製品や恒温恒湿室ビルドインチャンバーの売上高については、前年同期比で減少しました。海外市場では、中国・アジアを中心に販売拡大に努め、輸出が堅調に推移するとともに、中国関係会社が引き続き好調に推移しました。環境試験器全体では、受注高・売上高ともに前年同期比で増加しました。

半導体関連装置につきましては、評価システムが堅調に推移しましたが、受注高・売上高ともに好調であった前年同期比で減少しました。

FPD関連装置につきましては、国内メーカーなどに向けてクリーンオープンを受注しましたが、受注高は好調であった前年同期比で大幅に減少しました。売上高につきましては、前期受注案件の納入もあり前年同期比で大幅に増加しました。

エネルギーデバイス装置につきましては、エスベック本体においては製品拡充やデモ試験の実施による受注獲得・認知度向上に努め、二次電池やパワー半導体の評価装置や製造装置などが好調に推移しました。子会社のエスベックテクノ株式会社の売上高については前年同期比で減少しました。エネルギーデバイス装置全体では、前年同期比で受注高は増加し、売上高は減少しました。

こうした結果、装置事業全体では、前年同期比で受注高は3.1%減少し12,975百万円、売上高は1.4%減少し11,419百万円となりました。営業利益については、新製品効果と原価率の低減等の効果により25.2%増加の642百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	増減率 (%)
受注高	13,392	12,975	△3.1
売上高	11,585	11,419	△1.4
営業利益	513	642	25.2



## サービス事業

### ■ 事業内容

製品のアフターサービスや改造・周辺工事などのエンジニアリング、試験を代行する受託試験、製品レンタルなどのサービスを提供しています。

### ■ 業績の状況

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては、お客さまの経費削減などにより受注高・売上高ともに前年同期比で減少しました。

受託試験・レンタルにつきましては、主力のテストコンサルティングの自動車市場が伸長するとともに、機器レンタルやリセールが好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加しました。サービス事業全体では、前年同期比で受注高は2.7%減少し2,625百万円、売上高は1.6%減少し2,445百万円となりました。営業利益につきましては、売上構成の変化などにより42.2%増加の282百万円となりました。

	前第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	増減率 (%)
受注高	2,699	2,625	△2.7
売上高	2,486	2,445	△1.6
営業利益	198	282	42.2

## その他事業

### ■ 事業内容

森づくりや水辺づくり、都市緑化などの環境エンジニアリング事業や、野菜育成装置などを提供する植物工場事業を行っています。

### ■ 業績の状況

森づくりなどの環境エンジニアリング事業が好調に推移するとともに、植物工場事業において大型案件を受注しました。

その他事業全体では、震災により低迷した前年同期比で、受注高は123.2%増加し611百万円、売上高は69.5%増加し491百万円となりました。利益面につきましては、前年同期比で改善したものの75百万円の営業損失となりました。

	前第2四半期累計 【第59期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第60期】 (百万円)	増減率 (%)
受注高	273	611	123.2
売上高	290	491	69.5
営業損失	△143	△75	—

# 要約財務諸表（連結）

## 四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 平成23年9月30日	当第2四半期末 平成24年9月30日	前期末 平成24年3月31日
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>25,601</b>	<b>26,589</b>	<b>27,494</b>
現金及び預金	7,862	7,901	7,357
受取手形及び売掛金	10,074	10,752	13,215
有価証券	2,300	3,401	2,300
商品及び製品	331	368	368
仕掛品	1,825	1,250	1,179
原材料及び貯蔵品	1,006	1,120	1,038
その他	2,211	1,802	2,046
貸倒引当金	△ 10	△ 8	△ 11
<b>固定資産</b>	<b>11,128</b>	<b>11,277</b>	<b>11,134</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>8,253</b>	<b>8,379</b>	<b>8,124</b>
建物及び構築物（純額）	3,146	3,036	3,021
土地	4,412	4,408	4,407
その他（純額）	694	934	695
<b>無形固定資産</b>	<b>253</b>	<b>288</b>	<b>253</b>
投資その他の資産	2,621	2,609	2,755
<b>1 資産合計</b>	<b>36,730</b>	<b>37,867</b>	<b>38,628</b>

(注)有形固定資産の減価償却累計額  
 前第2四半期末 9,358百万円  
 当第2四半期末 9,561百万円  
 前期末 9,528百万円

**1** 総資産は37,867百万円で、前期末と比べ761百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加543百万円、受取手形及び売掛金の減少2,462百万円、有価証券の増加1,100百万円などによるものです。

(百万円)

科目	前第2四半期末 平成23年9月30日	当第2四半期末 平成24年9月30日	前期末 平成24年3月31日
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>7,126</b>	<b>7,077</b>	<b>8,046</b>
支払手形及び買掛金	4,452	4,227	4,837
短期借入金	11	—	—
賞与引当金	360	360	385
製品保証引当金	151	268	273
その他	2,151	2,220	2,549
<b>固定負債</b>	<b>1,762</b>	<b>1,471</b>	<b>1,531</b>
長期借入金	161	—	—
退職給付引当金	27	25	23
その他	1,573	1,445	1,508
<b>2 負債合計</b>	<b>8,889</b>	<b>8,548</b>	<b>9,578</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>29,446</b>	<b>30,893</b>	<b>30,577</b>
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172	7,172
利益剰余金	15,580	17,184	16,869
自己株式	△ 202	△ 360	△ 360
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 1,790</b>	<b>△ 1,775</b>	<b>△ 1,687</b>
その他有価証券評価差額金	103	74	227
繰延ヘッジ損益	△ 4	—	—
土地再評価差額金	△ 828	△ 741	△ 741
為替換算調整勘定	△ 1,060	△ 1,109	△ 1,174
少数株主持分	184	201	160
<b>3 純資産合計</b>	<b>27,840</b>	<b>29,318</b>	<b>29,050</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>36,730</b>	<b>37,867</b>	<b>38,628</b>

**2** 負債は8,548百万円で前期末と比べ1,029百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少609百万円、その他流動負債の減少413百万円などによるものです。

**3** 純資産は29,318百万円で前期末と比べ268百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加315百万円などによるものです。

## 四半期連結損益計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	当第2四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	14,306	14,290	31,906
売上原価	9,529	9,364	21,367
売上総利益	4,776	4,925	10,538
販売費及び一般管理費	4,207	4,075	8,710
<b>4 営業利益</b>	<b>569</b>	<b>850</b>	<b>1,828</b>
営業外収益	168	112	318
営業外費用	101	86	69
<b>5 経常利益</b>	<b>636</b>	<b>876</b>	<b>2,076</b>
特別利益	20	1	21
特別損失	90	23	40
税金等調整前四半期(当期)純利益	566	854	2,057
法人税、住民税及び事業税	17	197	62
少数株主利益	27	38	65
<b>6 四半期(当期)純利益</b>	<b>521</b>	<b>618</b>	<b>1,929</b>

**4 5** 原価率の改善および前期まで主力製品のモデルチェンジが完了し、研究開発費が低下したことなどにより、営業利益につきましては、前年同期比で49.4%増加し、850百万円となり、経常利益につきましては、前年同期比で37.8%増加し、876百万円となりました。

**6** 四半期純利益につきましては、法人税、住民税及び事業税の増加により、前年同期比で18.6%の増加に留まり、618百万円となりました。

**7** 営業活動によるキャッシュ・フローは、1,958百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、売上債権の減少2,484百万円、仕入債務の減少619百万円などによるものです。

**8** 投資活動によるキャッシュ・フローは、20百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、信託受益権の減少282百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出253百万円などによるものです。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	当第2四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	566	854	2,057
減価償却費	347	238	740
売上債権の増減額(△は増加)	2,020	2,484	△ 1,177
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 471	△ 286	△ 67
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 1,203	△ 619	△ 790
その他	△ 218	△ 712	226
<b>7 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,041</b>	<b>1,958</b>	<b>987</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー			
信託受益権の純増減額(△は増加)	299	282	78
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 82	△ 253	△ 330
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	1	1
投資有価証券の取得による支出	△ 0	△ 0	△ 1
その他	17	△ 9	22
<b>8 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>234</b>	<b>20</b>	<b>△ 229</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 200	—	△ 200
長期借入金の返済による支出	△ 5	—	△ 174
配当金の支払額	△ 232	△ 298	△ 349
その他	△ 18	△ 66	△ 189
<b>9 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 456</b>	<b>△ 365</b>	<b>△ 912</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	17	△ 34
現金及び現金同等物の増減額	821	1,631	△ 189
現金及び現金同等物の期首残高	9,819	9,630	9,819
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	10,640	11,261	9,630

**9** 財務活動によるキャッシュ・フローは、365百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額298百万円などによるものです。

# 会 社 の 概 要 ・ 役 員

## 会社の概要 (平成24年9月30日現在)

社 名 エスベック株式会社  
 英 文 社 名 ESPEC CORP.  
 創 業 昭和22年7月25日  
 設 立 昭和29年1月13日  
 資 本 金 6,895百万円  
 従 業 員 数 1,352名(連結) 856名(単体)  
 U R L <http://www.espec.co.jp/>  
 投資家情報ページ  
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

## 主な事業所

本 社 大阪市北区天神橋3丁目5番6号  
 営 業 拠 点 首都圏オフィス・仙台・熊谷・神奈川  
 名古屋・大阪・広島・福岡  
 工場その他事業所 福知山・宇都宮・神戸

## 子会社および 関 連 会 社

エスベックテクノ株式会社  
 エスベック九州株式会社  
 エスベックミック株式会社  
 株式会社ミックファーム大口  
 ESPEC NORTH AMERICA, INC.  
 ESPEC EUROPE GmbH  
 上海愛斯佩克環境設備有限公司  
 広州愛斯佩克環境儀器有限公司  
 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司  
 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司  
 ESPEC (CHINA) LTD.  
 ESPEC KOREA CORP.  
 ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN.BHD.

## 役員(平成24年9月30日現在)

代表取締役社長 石 田 雅 昭  
 常 務 取 締 役 廣 信 義  
 常 務 取 締 役 島 田 種 雄  
 常 務 取 締 役 石 井 邦 和  
 取 締 役 桶 谷 馨  
 取 締 役 村 上 精 一  
 取 締 役 志 関 誠 男  
 常 勤 監 査 役 松 南 雅 己  
 常 勤 監 査 役 村 上 充  
 監 査 役 松 村 安 之  
 監 査 役 村 瀬 一 郎

## (注)

1. 取締役 志関誠男氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 松村安之氏および村瀬一郎氏は、社外監査役であります。

# 株 式 の 状 況 ・ 株 主 メ モ

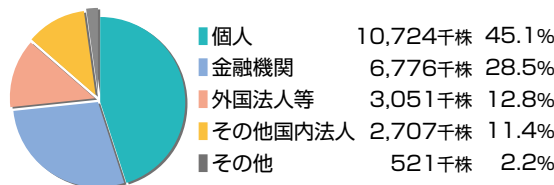
## 株式の状況(平成24年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	80,000,000株
発行済株式の総数	23,260,144株 (自己株式521,250株を除く)
株主数	5,980名

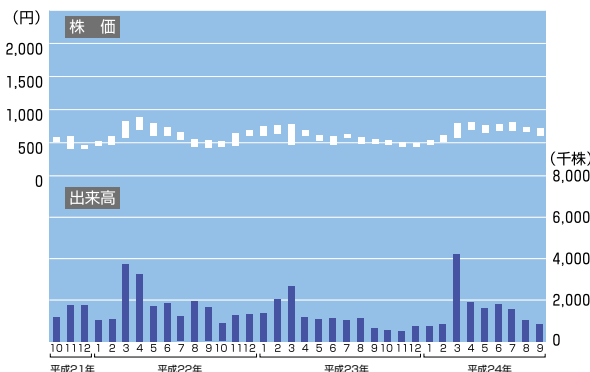
## 大株主

株主名	持株数 千株	出資比率 %
エスペック取引先持株会	1,742	7.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,256	5.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	998	4.19
エスペック従業員持株会	788	3.31
日本生命保険相互会社	744	3.13
SSBT ODOS OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	641	2.69
エスペック株式会社	521	2.19
株式会社みずほコーポレート銀行	513	2.15
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	456	1.91
株式会社立花エレクトック	419	1.76

## 所有者別分布状況



## 株価・出来高の推移



## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によってあらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京・大阪証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0210-288-324
お取扱店	みずほインベスターズ証券株式会社 (本店および全国各支店、フラネットブース(株式会社みずほ銀行内の店舗)) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
支払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほインベスターズ証券株式会社では取次のみとなります)
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/">http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/</a>
お問合せ先	エスペック株式会社 総務人事部 総務グループ Tel:06-6358-8820 Fax:06-6358-5500 e-mail:ir-div@espec.co.jp

※みずほインベスターズ証券は、平成25年1月4日以降はみずほ証券となります。

証券コード:6859

エスペック株式会社

